古橋エースへ抜け出せ

恩師「オフサイド」誤解だったかも

相手との駆け引きでコンマ何秒の反応速度にこだわるのが、サッカー男子日本代表のFW古橋亨梧(27)＝セルティック＝だ。その武器はかつて〝反則級〟だったという。高校時代の恩師は苦笑いしながら、謝罪の念を口にした。「今になってみると、本当に申し訳ないと思っているんです」

〝反則級〟のスピード

30日に開幕するスコットランド・プレミアリーグでは、連覇と3冠量産を狙う。欧州挑戦1年目の昨季は公式戦で計20得点。リーグ戦では得点王にあと1点に迫る12ゴールを挙げ、優勝に貢献した。新シーズンは欧州のクラブチーム王者を争う欧州チャンピオンズリーグ(CL)を控え、ワールドカップ(W杯)カタール大会出場も狙う。「CLは楽しみですが考えないようにします。チームとしては一つでも多くのタイトルを取りたい」と語る。本人が自負する得点のポイントは、前線での抜け出し。ルーツを探ろうと、毎年のように1リーガーを輩出する母校の大阪・興国高を訪ねた。サッカー部の内野智章監督(43)が初めて古橋を見たのは中学3年の時。「小さくて細い子」という印象を抱いたという。

6月のキリンチャレンジカップのブラジル戦の後半、シュートを放つ古橋(左) ＝吉田航太撮影

足が速いのに、自らボールを持って仕掛けることには消極的で自信がない様子。それでも「相手の背後に抜け出すのが独特のタイミングで、すごく速い。既に高校生が対応できないレベルだった」と走力や感覚の良さに驚かされ、センスを感じた。

しかし、常にギリギリを狙った相手の背後への抜け出しは絶妙なのか、試合ではオフサイドの反則を連発した。「『(オフサイドになるかどうかの)ライン割ろや』って、すごく怒った記憶がある。そのたびに『見ているんですけど……』と半泣きになっていた」

何度も怒ったが、古橋は中央大を経てプロ入りすると、この抜け出しが「代名詞」となってゴールを量産、日本を代表するFWに上り詰めた。そんな姿に内野監督は当時の考えを改め、謝りたいと感じるという。

「副審が彼のスピードについていけなかったのでは、と感じるようになった。完全に(相手の背後へフリーになって)抜け出しちゃうから、オフサイドに見えちゃう。実際、オフサイドでなかったことは、いっぱいあったのだと思う」

奇跡の出会いで完成

その妙技を、J1神戸で一緒にプレーしたMFアンドレス・イニエスタとFWダビド・ビジャがさらに輝かせた。ともに元スペイン代表で国内1部の強豪バルセロナに所属した世界的名手だ。古橋の抜け出しにパスを合わせられるイニエスタと、パスの受け手としてゴールを次々に決めたビジャ。内野監督は「彼を生かす世界一のパサーに出会い、受ける側のお手本もいた。奇跡としか言いようがない。日本人では引き出しきれないものが、(2人により)引き出されて、ストライカーとしてのスタイルが完成した」と見ている。

日本代表のエースへ階段を駆け上がることを内野監督は期待する。「おとなしくて、ひ弱そうに見えると思はある。怒っても反抗しないが、くそったれ根性で結果を出すタイプで、根っこにある負けん気の強さは強烈だった。(高校の同級生でもある)南野らと代表で一つの時代を築いてほしい」と願う。【長宗拓弥】

海外組 W杯への道いかに

欧州各国・地域のサッカーリーグが新シーズンを迎えた。日本代表候補の「海外組」にとっては、11月開幕のワールドカップ(W杯)カタール大会のメンバー入りへ重要なアピールの場。ステップアップや初の海外移籍、出場機会確保など、それぞれの決断は吉と出るか、凶と出るか。

欧州各国リーグ いよいよ開幕

サッカーの主な「海外組」日本代表候補の所属先

イングランド	
⑤ アーセナル	冨安健洋
⑥ ブライトン	△三笘薫
③ ハダースフィールド	○中山雄太
スペイン	
⑥ レアル・ソシエダード	○久保建英
⑭ レガネス	柴崎岳
⑮ ウエスカ	○橋本拳人
ドイツ	
⑤ ウニオン・ベルリン	原口元気
⑥ フライブルク	○堂安律
⑩ ボルシアMG	○板倉滉
⑪ アイントラハト・フランクフルト	鎌田大地
⑬ ボーフム	浅野拓磨
⑮ シュツットガルト	遠藤航、伊藤洋輝
① シャルケ※今季1部	○吉田麻也
⑱ デュッセルドルフ	田中碧
⑪ ハノーバー	室屋成
フランス	
③ モナコ	○南野拓実
⑥ ストラスブール	川島永嗣
① トゥールーズ※今季1部	オナイウ阿道
⑨ ニーム	植田直通
オランダ	
⑤ AZアルクマール	菅原由勢
ベルギー	
⑥ ゲンク	伊東純也
⑨ シントトロイデン	シュミット・ダニエル、林大地
⑩ セルクル・ブリュージュ	◎上田綺世
ポルトガル	
② スポルティング	○守田英正
スコットランド	
① セルティック	古橋亨梧、前田大然、旗手怜央

※27日時点。白抜き順位は各国一部リーグでの昨季順位、丸数字は2部相当リーグでの昨季順位、○は移籍、△はレンタル復帰、◎は初の海外移籍

ドイツで腕試し

イタリア1部サンプドリアを退団したDF吉田麻也(33)はドイツ1部復帰のシャルケと契約した。サンプドリアではシーズン終盤に出番が激減。W杯へ「試合に出なきゃいけない。でも残り限られるキャリアの中で高いレベルに身を置きたい。それが選手としての願いだが『需要と供給の問題もある』と話していた。

シャルケからポルシアMG(10位)へドイツ国内移籍したのは代表で存在感を増しているDF板倉滉(25)。オランダ1部PSVアイントホーフェンで昨季主力に定着したMF遠藤航(29)は、2季ぶりにドイツに渡り、フライブルク(6位)で代表生き残りを懸ける。

ドイツ1部には、昨季アイントラハト・フランクフルト(11位)の欧州リーグ制覇に貢献したMF鎌田大地(25)、シュツットガルト(15位)のMF遠藤航(29)とDF伊藤洋輝(23)、ウニオン・ベルリン(5位)のMF原口元気(31)らが集う。ドイツはW杯初戦の相手で、国内10連覇中で代表の主力がそろうバイエルン・ミュンヘンとの対戦は格好の腕試しの場になる。

上田は初挑戦決断

J1でトップの10得点をマークしていたFW上田綺世(23)は「今しかない、という決断。海外でも活躍できるクオリティーがないと(W杯で)活躍はできない」と初の欧州挑戦を選んだ。7月に鹿島からベルギー1部セルクル・ブリュージュ(10位)に移籍し、代表の最前線のポジションを取りに行く。初の欧州挑戦となった昨季、ベルギー1部サンジロワーズで活躍したMF三笘薫(25)は「保有元」のイングランドのブライトン(9位)でプレーする。

昨オフはFW大迫勇也(32)＝神戸、DF酒井宏樹(32)＝浦和、DF長友佑都(35)＝FC東京＝らベテランの国内復帰が相次いだ。それぞれの国内復帰がW杯メンバー争いにどんな影響をもたらすのか注目が集まる。【長宗拓弥】

出場機会確保 ステップアップ狙い

欧州リーグ(1部16位)でプレーした。「今年移籍する日本選手に限って、W杯を考えずに移籍したという選手はいないと思う。総合的にどう見ても、一番ここがいいなと思って移籍させてもらった」と理由を明かす。

全国高校野球 第104回 地方大会

日本文理 新潟
県岐阜商 岐阜
三重 三重
敦賀気比 福井
天理 奈良
浜田 島根
下関国際 山口
九州国際大付 福岡

今春の選抜大会出場の敦賀気比(福井)天理(奈良)のほか、日本文理(新潟)、県岐阜商、三重、浜田(島根)、下関国際(山口)も代表に決まった。社(兵庫)は初出場。愛知は愛工大名電と東邦が決勝に進んだ。

28日、各地で行われ、福岡では今春の選抜大会8強の九州国際大付属福岡学園を11-0で降し、6年ぶり8回目の出場を決めた。

宮城野部屋 元白鵬が継承

宮城野親方

日本相撲協会は28日、東京・両国国技館で理事会を開き、元横綱・白鵬の間垣親方(37)が年寄「宮城野」を襲名し、宮城野部屋を継承することを承認した。2021年秋場所後の引退から1年足らずで、師匠として指導に当たる。元横綱が師匠になるのは、昨年8月に田子ノ浦部屋から独立した元稀勢の里の二所ノ関親方以来。

宮城野親方(元前頭・竹葉山)は名跡交換で間垣親方となり、宮城野部屋付きとなった。8月に65歳の定年を迎えた後も再雇用制度で協会に残る予定。

また、21年の全国学